



鳥羽・志摩



# 海女もん

**このマークは、鳥羽・志摩の海女がとった良質な海産物であることを保証します。**

「海女もん」は、鳥羽志摩地域の海女が現地で採捕した漁獲物の共通ブランドで、海女振興協議会の「里海を創る海女の会」が海女漁業の振興のため取り組んでいます。

- 「海女もん」マークは、鳥羽志摩の海女漁業者による漁獲物、及びそれらを主な原料とする加工水産物に使用されます。
- 「海女もん」シールは、海女振興協議会で作成、販売しています。シール販売による収益は、海女振興のための活動費として使われます。



10/10には「里海を創る海女の会」、鳥羽磯部・三重外湾漁協の役員が県庁を訪れ、海女もんマークの報告とPRを行いました。



10/14にオープンした農水産物直売所「鳥羽マルシェ」で販売される「海女もん」商品



# 地域おこし協力隊について

## 地域おこし協力隊とは

○ **制度概要**：都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。

○ **実施主体**：地方公共団体

○ **活動期間**：概ね1年以上3年以下

○ **総務省の支援**：概ね次に掲げる経費について、特別交付税により財政支援

- ① 地域おこし協力隊員の募集等に要する経費：1団体あたり200万円上限
- ② 地域おこし協力隊員の活動に要する経費：隊員1人あたり400万円上限

(報償費等200万円、その他の経費(活動旅費、作業道具等の消耗品費、関係者間の調整などに要する事務的な経費、定住に向けた研修等の経費など) 200万円)



## 地域おこし協力隊導入の効果

～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～

### 地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を活かした活動
- 理想とする暮らしや生き甲斐発見

### 地域

- 斬新な視点(ヨソモノ・ワカモノ)
- 協力隊員の熱意と行動力が地域に大きな刺激を与える

### 地方公共団体

- 行政ではできなかった柔軟な地域おこし策
- 住民が増えることによる地域の活性化

## 隊員数、取組団体数の推移

⇒ 隊員数を3年で3倍に!

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	28年度(目標)
隊員数	89名	257名	413名	617名	978名	約3,000名
団体数	31団体	90団体	147団体	207団体	318団体	

※各年度の特別交付税ベース

隊員の  
約4割は  
女性

隊員の  
約8割が  
20歳代と30歳代

任期終了後、  
約6割が  
同じ地域に定住  
※H25.6末調査時点



## 海女と漁師の町・石鏡町

太平洋を望む石鏡は、古くから漁場が豊かで漁船や海女の漁が行われてきた。石鏡漁港では大小の漁船がひしめき合う。漁師が漁に使う道具の手入れをする網立小屋が立ち並び風景はまさに漁師町。

### 石鏡町の漁業の現状と課題 (8月25日漁業者ヒアリングより)

- ・正組合員 平均年齢 70歳 最老年齢層 70代
- ・正組合員数 (平成13年度→平成26年度) 209人 ⇒ 54人 (74.2%減少)
- ・後継者の有無 ⇒ 6.2% (平成20年度漁協調べ) (ヒアリング実施13支所の中で一番低い値である)
- ・石鏡町人口の高齢化 高齢化率 (平成26年度) 40.9%

## 石鏡町 海女

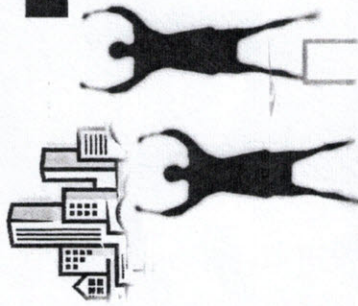
海女は約70名。海女のつくる「ウニの塩辛」は知る人ぞ知る絶品であり、手に入れるのは困難。商品化を望む声が多い。

## 石鏡町の今

石鏡町のヒジキを干す風景は有名で、春から初夏にかけてのヒジキ狩りは町総出で行われる。最近では石鏡神社の「子宝の石」にお参りする人も増えている。



## 地域おこし協力隊



## 海女になりたい人 募集

石鏡町へ

漁協、町内会、  
旅館組合等と連携



・海女見習い

・地域おこし  
海女文化語り部  
・商品開発 等

## 検討課題

- ・地域での同意
- ・漁業権
- ・居住場所
- ・活動拠点
- ・活動内容

## 目指す姿

- ・漁業者の一助となり、豊富な水産物を使った商品開発をするなど、石鏡漁業のさらなる活力を見出す。
- ・海女文化の語り部として、石鏡町に訪れたお客さまを案内するなど、旅館組合との連携による誘客促進を図る。
- ・地域に根差した活動を経て石鏡町に定住、就労する。

漁業振興

歴史・文  
化継承

協力  
隊

商品開発

観光振興